殺されたおれん

名前はおれんという人で、女です。昔の名前だものな。一人娘でな。とうさんもかあさんも亡くなって、後妻かあさん一人いでよ。その子と二人だものな。その子、一一か二二になるとき、昔の者だ老けでいるものだからな。子供だたって、一二、三になれば男と遊んだりしてな。あの子いい娘だと思えば、仲良くなったり、そしてまずいい娘だとてほめらえで、よろこんであったと。したば、それ、ほれ、おかさんそれ憎くてな、憎くて憎くてそいってたうちに、身持になったそだ。一二とか一三たて、昔の者だ早いもんだがらな、一四、五になれば嫁になって行ったもだし。したばそのかあさんよ、それ憎らしどて、殺しにかかったなや。なんとしてこの子殺せばいいと思って、なばが考えだべ。山さ行ってよ、毒な草木七色さがして、七日煎じて、茶碗で一杯つくって、その子寝だどこさ行って、

「おれん、おれん」

優しくしてな、

「おれん、なんたらだ。どこ悪り」

って障子開けて入っていって、

「ここさこれ飲め、薬持って来た」

って持ってだど。

「これ飲まねば親不孝者だど」

って言ったふうだ。したば、

「親に不孝ならいただきましょう」

どてな。いただくどて、西の方見て父親拝むどよ、東の方見て母親拝むど、

「北は成仏、南無阿弥陀仏」

とせったそうだな、その子。わがってるな。して八畳の部屋さ寝でだものやらな、畳八畳ちどりに染めてって、ちどりって、出血したんでね。お産してしまったでな。その薬あたったなや。毒飲んだもの。

「これを見せたい事実の親に」

って言って死んだなや。そう聞いてあった。